

2025年3月

2024年度 地域ビジネススタートアッププログラムin四万十町 Day9 ビジュアルレポート

高知大学 地域協働学部
コミュニティデザイン研究室



構成

- 1.プログラム概要 p.2
- 2.ワーク：グループメンタリング p.12
- 3.最終報告会 p.15
- 4.実施風景 p.75

1.プログラム概要

プログラム概要

■ 名称：

地域ビジネススタートアッププログラム in四万十町

■ 回数：

全9回

-6回目以降は、モチベーションとアクションの状況を踏まえて選定予定

■ 期間：

2024年6月22日～2025年3月16日

■ 主催・運営：

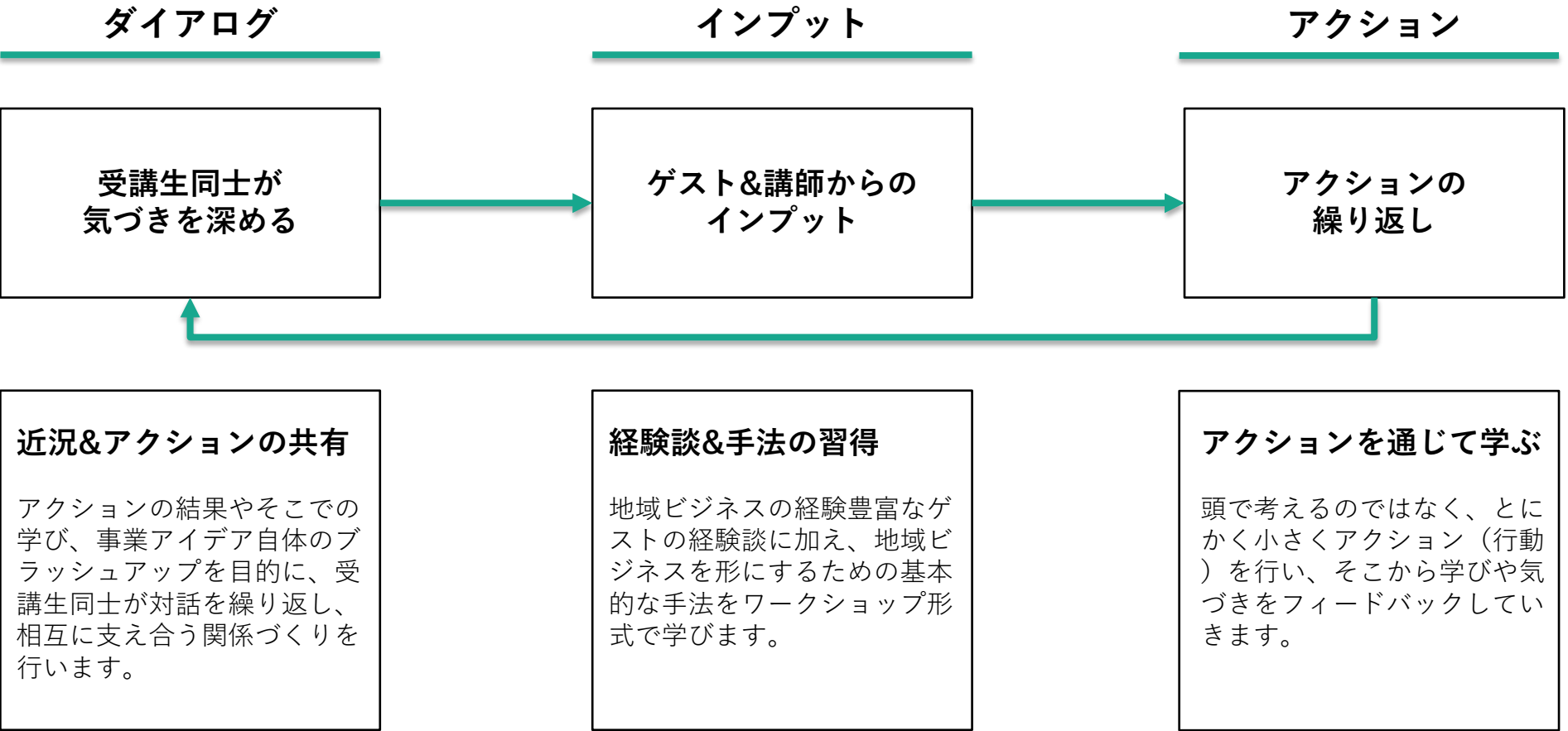
主催：四万十町

運営：高知大学地域協働学部コミュニティデザイン研究室（須藤順研究室）

スケジュール

講座回	実施概要
第1回	6/22：地域ビジネス概論&当事者意識の掘り起こし（自分のWill/Why&事業のWhy）
第2回	7/27：顧客の抱える課題を見つけるための観察・リサーチの方法
第3回	9/1：アイデアの生み出し方&コンセプトの作り方
第4回	10/5：試作品・モデルの制作&検証方法
第5回	11/9：デモデイ（アイデア発表・体験イベント）
第6回	12/14：地域プロモーション&ファンマーケティングの考え方
第7回	1/11：ビジネスモデル（リーンキャンバス）の設計&ビジネスプランの作り方
第8回	2/1：ストーリーテリング&クラウドファンディング（資金調達&テストマーケティング）の進め方
第9回	3/16：最終報告会

プログラム構造



プログラムポイント

- ①自分らしい地域ビジネスの構築
- ②経験豊富なメンター陣によるサポート
- ③アイデア創造からビジネスモデル構築まで一貫サポート
- ④学び合う・支え合うコミュニティの形成
- ⑤学生による伴走型サポート

自分の強みや得意なこと、
好きを活かしながら、
自分が心からやりたいと思える
事業を創り出していく

自分・身の回りの人を幸せにする事業創り

ゲスト & メンター



守時 健さん

株式会社パンクチュアル
代表取締役



鷺谷 恭子さん

株式会社ケイリーパートナーズ
代表取締役 / 2 hours 代表



町田 美紀さん

株式会社VISIONECT 代表取締役
/ 株式会社and. 取締役



丑田 俊輔さん

シェアビレッジ株式会社 /
ハバタク株式会社 代表取締役



浅野 聡子さん

株式会社StoryCrew
代表取締役共同経営者



瀬戸口 信也さん

合同会社
高知カンパニューブルワリー
代表取締役



須子 善彦さん

マイプロジェクト株式会社
代表取締役



原 亮さん

エイチタス株式会社
代表取締役

学生メンター



柳原 伊吹

高知大学大学院 総合人間自然科学研究科 地域協働学専攻 2年



西上 一成

高知大学大学院 総合人間自然科学研究科 地域協働学専攻 1年



杉田珠夢

高知大学 地域協働学部
地域協働学科 4年



竹中 楓

高知大学 地域協働学部
地域協働学科 1年



田村 敢

高知大学 地域協働学部
地域協働学科 4年



奈良 可南子

高知大学 地域協働学部
地域協働学科 3年



小池 乙歌

高知大学 人文社会科学部
人文社会科学科 2年

支援内容

①個別メンタリング/集団メンタリング

活動を進める中での悩みや不安、事業化に向けての課題、事業内容について経験豊富なメンター陣からのサポートが受けられます。

②プレゼンテーション機会の提供

プログラム内はもちろん、様々なプレゼンテーション機会を提供し、自らのアイデアへのフィードバックや協力者集めの機会を提供します。

③地域との関係づくりに向けたコーディネート支援

事業化に向けて地域内の事業者や関係部署を紹介し、事業の現実に向けたコーディネートを行います。

④活動サポート

高知大学コミュニティデザイン研究室所属の学生が受講生の取り組みをサポートします。

⑤試作品・モデルの実証実験経費の一部補助

試作品の開発や実証実験に係る経費の一部を補助します。

⑥オリジナルテキスト『地域ビジネススタートガイドブック』の提供

地域ビジネスに取り組む際に必要となる視点や考え方、アイデアを形にするための各種フレームワークをまとめたオリジナルテキストを無料で提供します。

大切にしてほしいこと＝講座全体を通してのルール

- ①安心・安全の場をみんなで創ろう
- ②ありのままの自分を素直に出そう
- ③仲間・プロジェクトを評価しない
- ④プロジェクトは変わってOK!
- ⑤お互いが最大の応援者になる

2. ワーク：グループメンタリング

ワーク：グループメンタリング

■ 目的・ねらい

最終報告会に向け、ビジネスアイデアとピッチ資料を磨き上げることを目的にメンターからのフィードバックをもらう。

■ ワークプロセス・時間

Step① 受講生がメンターに向けてピッチを行う（8min）

Step② 外部メンターがフィードバックを行う（15min）

Step③ 他の受講生、学生メンターもフィードバックを行う（5min）

Step④ 他の受講生も同じ流れで順番にメンタリングを行う

グループメンタリングを担当したメンターの概要



株式会社アースエイド 代表取締役 嶋崎裕也

2004年に自動車メーカーのマツダ入社。R&D部門にて開発統括業務、シャシー開発、次世代低燃費エンジン開発などに携わった後、2009年退社。6次産業立ち上げに必要な農業技術や食品加工技術の開発、加工場建設や経営知識の習得に加えて現居住地の限界集落のブロードバンド化活動などを3年半掛けて行い、2013年に農業生産から食品加工、販売までを手掛ける「株式会社アースエイド」を創業。

「健康的な食と文化の提供を通じて お客様に幸せを提供する」を基本理念とし、高知の伝統調味料「葉ニンニクぬた」の通年量産化に日本初で成功した事をきっかけに国内だけではなく、海外へも広めようと販促活動を行う。現在は社団法人日本総合医学会の監事も務め、健康相談や食育講演活動を通じて「食の本質」を伝えることにも尽力し、ガン・糖尿病等の生活習慣病や精神疾患の患者を削減させて、増大し続ける医療費問題に貢献することを人生の目標としている。



株式会社相愛 高知本社営業 大下宗亮

地域計画・観光・環境保全の専門家として、長年にわたり高知県内の地域活性化に貢献。RCCM（都市計画・地方計画）の資格を持ち、観光士・環境カウンセラー（市民・事業者部門）・防災士としての知見を活かしながら、多岐にわたる地域計画や観光振興プロジェクトを手掛ける。

これまでに山荘梶ヶ森アウトドア体験プログラム構築、大川村白滝の里施設改修計画、大豊町エコツアーガイド養成、香南市自転車活用推進計画、南国市シンボルロード構想策定、五台山Park-PFI関連事業など、地域の特色を活かした計画策定に携わる。特に観光振興や環境保全、文化財の保存活用にも注力して、しらす基本構想策定など、持続可能な地域づくりを推進している。

現在、高知県環境カウンセラー協会会長、一般社団法人（一社）こうち観光ネットワーク専務理事として、環境・観光・地域計画の分野で幅広く活動。多方面の専門知識を活かし、高知の魅力を未来へつなげる取り組みを続けている。

3.最終報告会

最終報告会

■ 目的・ねらい

1年間の集大成として、自身の考えてきたビジネスアイデアの発表を行う。今年度は優劣をつけることは目的とせず、四万十町の住民や役場職員にビジネスアイデアの内容を知ってもらい、活動の応援者や仲間を得ることを目的とする。

■ ワークプロセス・時間

Step① 登壇者の発表（8min）

Step② 参加者からの質問・フィードバック（7min）

Step③ 付箋に応援コメントを記載いただく



「四万十の小さな体験コーディネーター～四万十の日常に触れる体験詰め合わせ～」 小野雄介さん

小野氏は、大正地域で「SAMARU」というゲストハウスの事業に取り組まれている。その事業を元に、大正地域に存在する空き家を活用した民泊の提供と観光コンテンツを磨き上げ、地域の日常を届けるビジネスアイデアの発表が行われた。

このサービスを提供できる強みとして、10年間大正地域に住み、活動をしてきたことから、住民との信頼形成ができていると話された。また、日常にある四万十町外では当たり前ではない魅力を提供したいという想いが語られた。

具体的なコンテンツとして、牛鬼を担ぐ体験や熊野神社の秋祭りの餅投げ、地域内で行われる住民同士の宴会など、これまでは観光コンテンツとして扱われていない日常の一部を体感してもらうことを重視していると話された。

今後は、地域をつなぐコーディネーターとして歩み、プロジェクトへ地域住民にも関わってもらい、誰もが地域づくりの当事者であり、実践者である世界を作り出したいという目標について説明が行われた。



「四万十の小さな体験コーディネーター～四万十の日常に触れる体験詰め合わせ～」 小野雄介さん

Q：大正地域の人口は増えていく傾向なのか、どういう実態なのか？

A：大正が一番少なくなっている。体験コンテンツ作るのは難しいが、今ある日常をそのまま提供しようと考えている。賑やかさを提供して、外との交流を作れたらと考えている。

Q：最後の資料にある打井川地域に宿を作る上で、どのような宿を作るか？どうして打井川地域なのか？

A：私が最初に着任した地域が打井川地域であった。また、地域住民との関係性が比較的強いことや、空き家に関する相談を受けたことも関係している。

Q：小野さんは地域のキーマンになってくれているから言っていることも理解できる。今後地域の中で、地域に求めると住民に求めることはあるか？

A：地元の人と一緒に取り組めたら理想的。今後は地域おこしの仲間をどんどん増やしていきたいと考えている。



「四万十の小さな体験コーディネーター～四万十の日常に触れる体験詰め合わせ～」 小野雄介さん

四万十の 小さな体験コーディネーター

～四万十の日常に触れる体験詰め合わせ～

～自己紹介～

- ・ 名前：小野雄介
- ・ 出身：大分県⇒愛知県⇒京都府⇒福岡県
- ・ 趣味：読書 水曜どうでしょう
- ・ 2015年地域おこし協力隊として四万十町に移住。
- ・ 2018年7月に大正駅前にEkimaeHouseSamaruを開業。現在7年目。移住10年目。



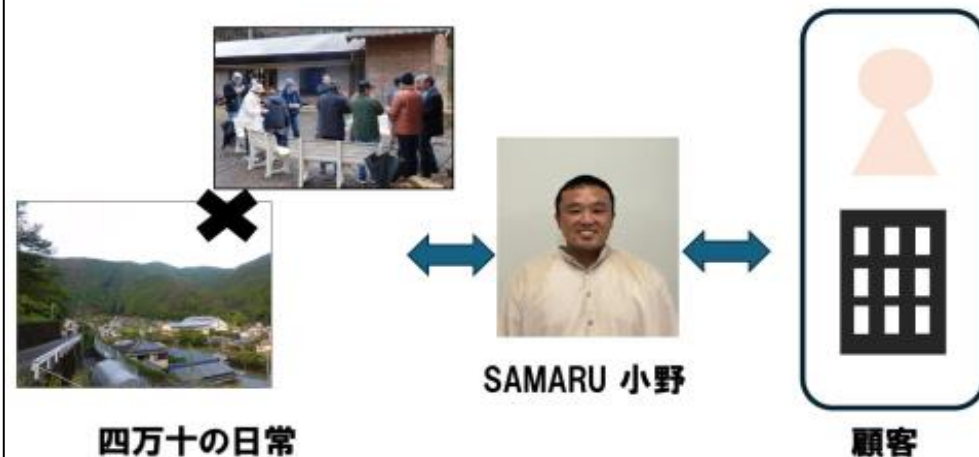
どんなもの？

四万十の
”あたりまえ”
に入り込む

地域の課題

- ・ 地域の伝統的な祭りは、人口の減少や高齢化の影響で衰退している。
- ・ コロナの影響で、以前は活発だった地域のイベントが消失してしまった。
⇒ 一度中断すると再開が難しい。
- ・ コンテンツは存在するが、簡単に実施できない
⇒ 人材や経験が不足している。手間が掛かる。

「四万十の小さな体験コーディネーター～四万十の日常に触れる体験詰め合わせ～」 小野雄介さん



つなぐ

小野の強み

- 10年間の移住経験
(地域おこし協力隊・ゲストハウスのオーナー)
- パンフレットには載っていないユニークな体験を提供可能
- 地域で実施したイベントなどの豊富な経験



「四万十の小さな体験コーディネーター～四万十の日常に触れる体験詰め合わせ～」 小野雄介さん



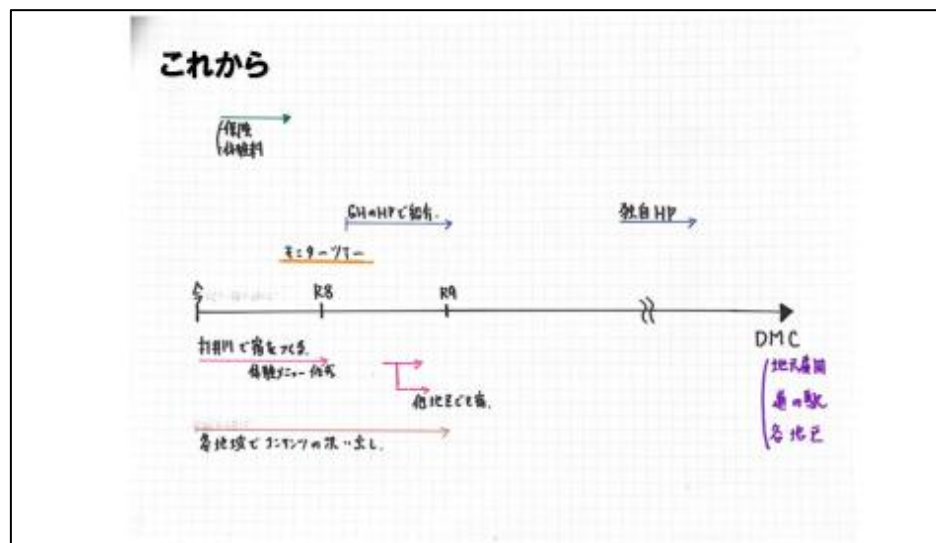
どんな世界をつくるのか

★地域みんながコンテンツの供給者となり、
地域全体で訪問者を迎える世界

★コンテンツ提供者と顧客が末長く繋がる世界

★誰もが地域おこしの当事者であり、実践者である世界

「四万十の小さな体験コーディネーター～四万十の日常に触れる体験詰め合わせ～」 小野雄介さん



「四万十の小さな体験コーディネーター～四万十の日常に触れる体験詰め合わせ～」 小野雄介さん



「MIRAID～高校生の未来をガイドする、未来を切り開く場所～」 国沢桃子さん

国沢氏からは、高校生の進路などの選択肢を広げる居場所づくりのプロジェクトについて発表が行われた。

事業に取り組む背景として、自分自身は京都大学に進学したものの、社会に必要されていないのではないかと悩み就職することができなかった原体験が語られた。このような悩みを抱えるきっかけが、高校時代にただ勉強をすればいいと考えて生活をしたことが大きな要因であったことが回想された。

同じような境遇の学生を増やしたくないと、四万十町で進路に関する悩みを相談できる居場所を作るプロジェクトを考えたと話された。

高校生の実態を把握するため複数回のヒアリングを実施し、実体験の機会不足、学校教育と社会のギャップ、正解のない課題に取り組んでいく力、高校生と事業者のマッチングから生じる初バイトのハードルが、四万十町の高校生の課題として気づいたと語られ、それに向けた居場所づくりを行いたいと述べられた。

発表の最後には、四万十町の高校生がなんとなくの人生ではなく、腑に落ちた人生選択ができるようにしていくために、地域の方々の応援や協力を求めた。



「MIRAID～高校生の未来をガイドする、未来を切り開く場所～」 国沢桃子さん

感想・意見

●発表を聞いた時にビジネスにするのは難しいと思った。しかし、取り組みとして大事だと思った。役場としても協力させて欲しいと思う。

●活動が軌道に乗って本当に必要な活動である認識が整えば四万十町全体として取り組むことも考えたいので応援している。

●高校生が多感な時期に国沢さんのような人からの支援が必要だと考えている。MIRAIDの取り組み案からそのヒントをもらったので、校長先生、教頭先生と話し合い、学校との連携を進めていくことや取り組みの発信を続けて応援団を付けてほしいと思った。



「MIRAID～高校生の未来をガイドする、未来を切り開く場所～」 国沢桃子さん



自己紹介



名前： 国沢桃子（ももちゃん）

出身地： 高知県高知市

経歴：

京都大学建築学科卒業
→オーガニックふとん屋で事務職や工場業務担当
→パン屋の製造
→医療事務
→現在、四万十町地域おこし協力隊（十和にぎわいまちづくり支援）

趣味： ギター弾き語り 作詞作曲
読書 気持ちいい場所を探して昼寝をする



社会に出るときに感じた痛み



自分は**社会に**
求められていない
んじゃない？

求人欄の『明るい人』

自分は明るくないから
求められていないんだ。。。
そこに合わない人は社会不適合なんだ。。

マイペースな自分

接客業のアルバイトでは
相手のペースに合わせて
動かないといけない。

大学生のときに感じた痛み

勉強さえ
してれば、
何とかなる
でしょう？

（世間的に良しと
されているから）



本当に
『やりたいこと』
って何だろう？

世間と自分の 基準のズレ

建築学科の大学生に
なってみただけど、
時間にゆとりがある状態で
改めて考えてみると、
世間がいいと
言っているものを
選んでいただけだったな。
自分はそんなにいいと思っ
てなかったと気づいた。

「MIRAID～高校生の未来をガイドする、未来を切り開く場所～」 国沢桃子さん

高校生聞き取り調査

・対象：四万十高校寮生

11名

・目的：

高校生の普段の雰囲気を知る

テーマ1 将来

テーマ2 居場所

テーマ3 アルバイト

ボランティア活動



調査結果 1

Q.将来について



**A.働くこと自体が
漠然と不安**

- ・やりたいことがしっかり決まっている子
- ・やりたいことは明確でないが目星はつけている子
- ・働きたくない子

調査結果 2

Q.居場所について



**A.第3の居場所の
需要はありそう**

- ・寮の門限があるので、自由に動ける時間は限られている
- ・大正駅や河原を散歩している
- ・もっとコミュニケーションがとれる場所が欲しいという声もあった

調査結果 3

Q.アルバイト
ボランティア活動
について



A.興味あり！

- ・単発のボランティアは学校で掲示されているが、学生への認知度は不明
- ・じゅうくでマルシェイベント出店している

↓
アルバイトやボランティアに興味がある子は予想以上にいた。
(休日になることがないのが原因？)

「MIRAID～高校生の未来をガイドする、未来を切り開く場所～」 国沢桃子さん

四万十町の高校生が抱える問題



実体験の機会不足

進路を選択するために
参考にできる

実体験を積めるチャンス
が少ない。

バイトに興味はあるが、
マッチングできていない
休日の自由に使える時間を寝てしまっ
ている子もいた。

バイトの募集は数が限られているよう
で、ボランティアの募集も全員の目につ
いているわけではなさそう。

MIRAIDが解決したい課題

1. 実体験の機会不足
2. 学校教育と社会のギャップ
3. 初バイトのハードル



課題①

解決策

提供価値

実体験の機会不足

普段は接点
がない
けれど、
実は身近に
いる大人と
出会い、
話す



地域の大人とつながる
場所提供

やってみるきっかけの場となる。
自分の世界を広げてほしい。
やりたいことが見つかる
世界が広がる

課題②

解決策

提供価値

学校教育と
社会のギャップ

地域学習の
発展バージ
ョン
地域の
イベントに
出店する



高校生自身が
イベント等を企画・運営

失敗しても
MIRAID
スタッフがサ
ポートできる
環境
大きく失敗し
ないような
見守り体制

失敗しても大丈夫

「MIRAID～高校生の未来をガイドする、未来を切り開く場所～」 国沢桃子さん

課題③

初バイトのハードル

解決策

初めてのことに不安な高校生と雇い主の間にMIRAIDが入り、サポートを行う



アルバイトやボランティア
サポート付きの
アルバイトやボランティア

提供価値

地域を知って、社会人としてここで自分を生かせるようになった子供たちは地元定着率がUPする（地域愛着）

子どもの地域定着率UP

提供したい体験・価値

やりたいことがわからない。
（社会に出る前に）
地域の中で安心して挑戦・失敗をする



正直に生きるのは難しいけど、
未来に対して
ポジティブな期待感
を持って
社会に挑戦できる



事例紹介



ここは「高校生びいき」の古民家カフェ
コミュニティ・カフェ EMANON です。



高校生利用
半額
「やってみたい」をサポート
「やってみる」をサポート
「やってみる」をサポート

出典：コミュニティ・カフェ EMANON | 福島県白河市
高校生びいきの古民家カフェ / <https://emanon.fukushima.jp/about/>

高校生びいきの古民家カフェ EMANON

- 福島県白河市
- 人口 59,858 人
（令和元年（2019）年 5 月 1 日現在）
- 高校生の利用無料
- 高校生はドリンク半額
- 高校生のサードプレイスとして「まなぶ」「すごす」「つぶやく」「つくる」「やってみる」の5つを柱に活動しています



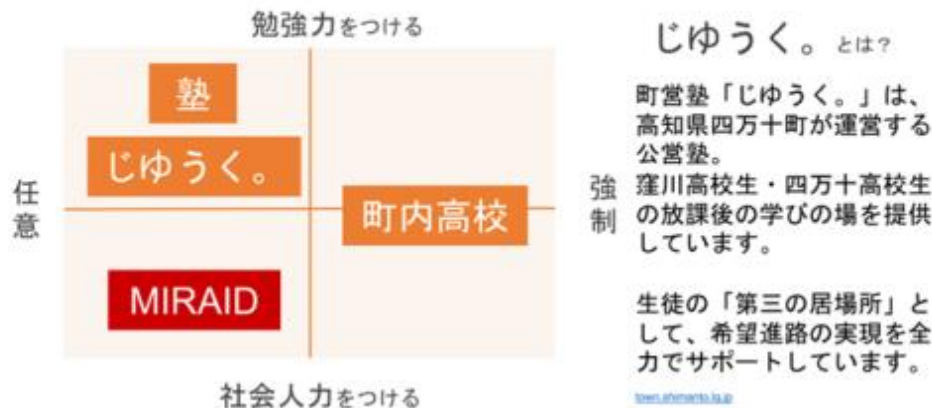
高校生と地域をつなぐ プラットフォーム うずうず

高校生の「やってみたい」という意欲と、地域住民や事業者の「助けて」というニーズを結び付け、双方に学びの機会を提供することを目的としています。

出典：高校生と地域をつなぐプラットフォーム
うずうず / <https://uzu-uzu.jp/>

「MIRAID～高校生の未来をガイドする、未来を切り開く場所～」 国沢桃子さん

四万十町高校生の教育機関 分布図



四万十町 2023年度高校進路状況



卒業後、社会人として高知県に残った学生は10人

出典
https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/2023060100280/file_content/file_202306291531_1.pdf

事業内容



関係者



「MIRAID～高校生の未来をガイドする、未来を切り開く場所～」 国沢桃子さん

関係者

・ MIRAID公式メンター
・ MIRAIDサポーターなどの肩書きを作る



高校生

進路や将来に不安を抱えている
アルバイトやボランティアを通じて社会経験を積みたい



地域事業者

飲食店など、特に人手不足の店舗。
アルバイトやボランティアの要員として



都市部に住む 地元出身者

地元の若者の支援に関心がある
公式メンターやサポーターとしての役割



保護者、 教育関係者

高校生のキャリア形成を支援したい。
町内教育機関間で連携

収支について

支出



- ・ イベントやワークショップの運営費
- ・ 人件費（スタッフやメンターへの報酬）
- ・ 備品や食材の購入費
- ・ 広報費用（ホームページ作成・SNS運用・チラシ作成）

収入



- ・ 地域の飲食店や事業者からの協賛金や参加費
- ・ ワークショップやイベントの参加費
- ・ 行政や企業からの助成金やスポンサーシップ

主要目標

計測指標



- ・ 高校生の参加者数（月間・年間）
- ・ 地域の飲食店や事業者との提携数
- ・ SNSのフォロワー数やエンゲージメント率

アンケート調査

- ・ 自主企画のイベントやアルバイト・ボランティアを経験した高校生の満足度



MIRAIDのオリジナリティ



社会に出るときに
痛みを感じた
実体験



四万十町
高校生との
つながり



地域の飲食店や
事業者と連携

「MIRAID～高校生の未来をガイドする、未来を切り開く場所～」 国沢桃子さん

MIRAID(ミライド)が 目指す世界

やりたいことがわからない
やってみるチャンスがない
選択肢が少ない
何となくレールに
乗る



正直に生きるのは
難しいけど、
肚落ちした選択を。



提供したい体験・価値

やりたいことがわからない。
(社会に出る前に)
地域の中で安心して
挑戦・失敗をする



正直に生きるのは難しいけど、
未来に対して
ポジティブな期待感
を持って
社会に挑戦できる



質問コーナーでぜひ聞いてほしいこと！

- ✓ 高校生のキャリア支援について
・進路を決める上で、役立った経験はありますか？
- ✓ 地域との連携について
・高校生が地域で活躍できる新しい機会は、どんなものが考えられますか？
- ✓ MIRAIDの運営について
・企業や団体との連携の可能性は？
- ✓ その他、ご意見・ご感想
・MIRAIDの改善点や、より良くするためのアイデアがあればぜひお聞かせください！



チャネル

高校生向け



- ・高校内での説明会や掲示板での告知
- ・町営塾じゅうくでの告知
- ・SNS (Instagram, LINE) を活用した情報発信

事業者向け



- ・地域の飲食店や事業者との直接的な連携
- ・SNS (Instagram, LINE) を活用した情報発信
- ・地域イベントやマルシェでのPR活動
- ・地元メディア (新聞・ケーブルテレビ) を活用した広報

「MIRAID～高校生の未来をガイドする、未来を切り開く場所～」 国沢桃子さん



「轟の元気ばあちゃんと～地元の恵みでシフォンケーキ・ジャム作り教室～」川口加代子さん

川口氏からは三島キャンプ場を活用した、料理教室を提供するビジネスモデルの発表が行われた。

サービスを提供する背景として、三島地域の魅力を発信したいという想いや、若者やお孫さんとの交流をしたいこと、生きがいの追求をしたいという地域への貢献心と自分自身のライフスタイルの追求の2つを目的として、アイデアを実現しようとしていることが語られた。

料理教室を提供する理由は、四万十町で二拠点生活を行なって以降、人材育成推進センターの講座などを通じて自己実現のためにシフォンケーキ作りやジャム作りを行い、料理のスキルを高めてきたことや、三島地区にある地域の資源のお米や卵の貴重さ、美味しさを届けたいと思ったためと話された。

三島キャンプ場の主要な利用方法は、キャンプ施設であるが、キャンプが楽しめない高齢者の方であっても三島の魅力やお孫さんとの交流、新しいライフスタイルの追求方法を料理教室を使って届けていきたいという想いが語られた。



「轟の元気ばあちゃんと～地元の恵みでシフォンケーキ・ジャム作り教室～」川口加代子さん

感想・意見

●川口さんのバイタリティに驚かされる。川口さんの取り組みは冬の四万十川の観光の磨き上げになると思っている。今後の取り組みについて期待している。

●地域の人達との役割分担として、体験メニューを地域の人と取り組んでもらえると考えているので活躍して欲しいと考えている。観光のプランの料金となると、お金を払うという話もあるので頑張っている。

Q：三島はすごくいい場所だが、シフォンケーキ以外の体験で考えていることはあるか？

A：後の渋谷さんが磨き上げている。ただし、まだ足りないと思うので頑張りたい。

Q：シフォンケーキ以外で、米粉の加工品を考えているか？

A：米粉の利用方法はたくさんありそう。活用方法は研究していきたい。



「轟の元気ばあちゃんと～地元の恵みでシフォンケーキ・ジャム作り教室～」川口加代子さん

三島ファンを増やしたい

轟の元気ばあちゃんと

地元の恵みでシフォンケーキ・ジャム作り教室



川口 加代子

本日の提案

①自己紹介

I want to stay young!

②三島キャンプ場紹介

③ジャム・シフォンケーキ 体験教室とは？

I want to stay young!!



大雪を楽しむ



8月 サップに挑戦



3月初旬 ハノイ旅行



なぜこの取り組みをするのか？
私にできることは？



* 地域の良さの発信

* 若者や孫との交流

* 生きがいの追求

「轟の元気ばあちゃんと～地元の恵みでシフォンケーキ・ジャム作り教室～」川口加代子さん

轟地区と三島



地域の住民集合



轟の人は働き者

タイトル 丹精を込めて



高知医大病院の廊下に飾られています



ジャムの材料



「轟の元気ばあちゃんと～地元の恵みでシフォンケーキ・ジャム作り教室～」川口加代子さん



近所の卵

シフォンケーキの素材

我家の米



材料の約8割は地元産

たまご・米粉（地元）砂糖・油・豆乳

体験オプション

- * 米粉シフォンケーキ
- * 季節のジャムづくり



定 員：1名～4名
開催場所：三島キャンプ場ビジターセンター
所要時間：約2時間
持ち物：エプロン・三角巾・持ち帰りの袋
開催日時：日曜日～木曜日（時間は要相談）
参加費用：1組4名まで1万円（別途材料費）
要予約：TEL 088 6283 1717（三島キャンプ場）

その他：原則1日1組のみ受け入れ



モニター教室の様子



シフォンケーキ こんなアレンジも

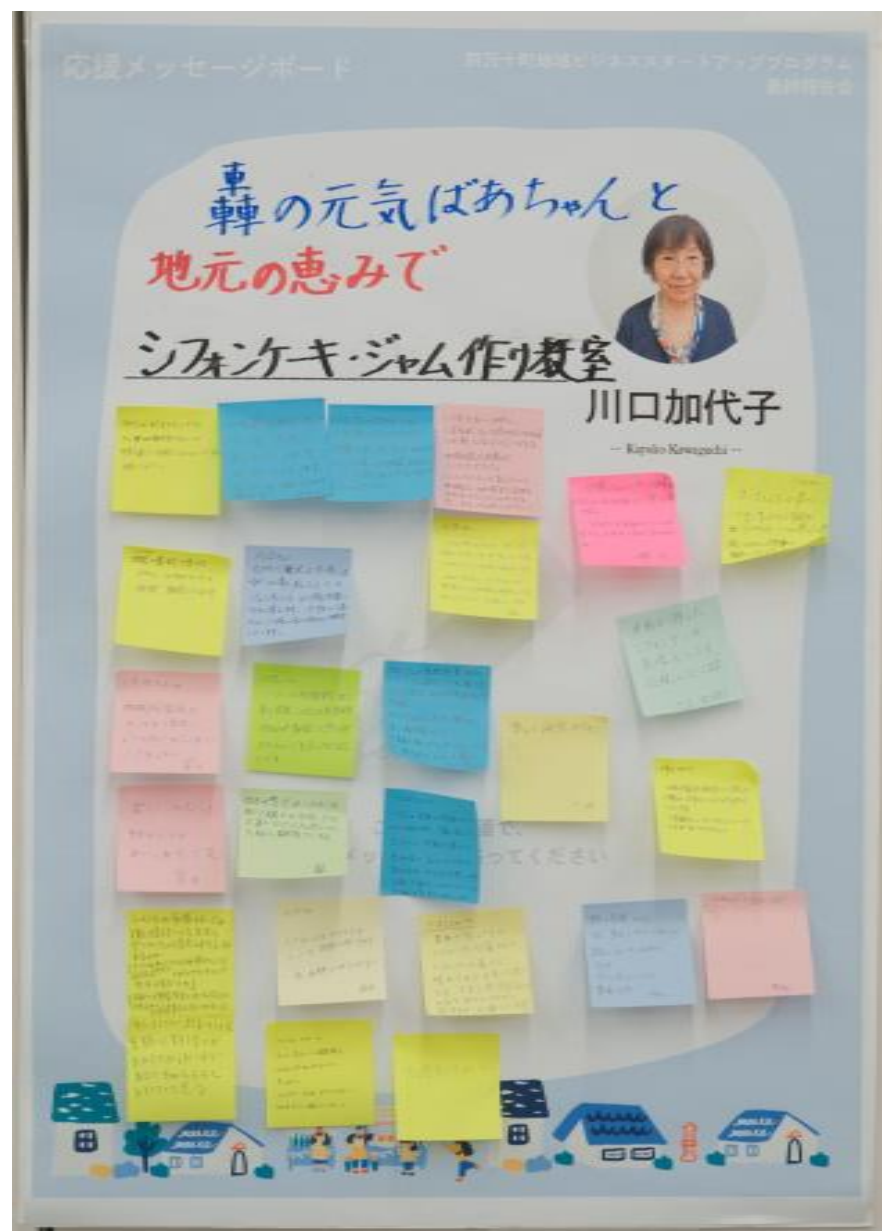


「轟の元気ばあちゃんと～地元の恵みでシフォンケーキ・ジャム作り教室～」川口加代子さん



三島キャンプ場でお待ちしています

「轟の元気ばあちゃんと～地元の恵みでシフォンケーキ・ジャム作り教室～」川口加代子さん



「-地元の食と自然を満喫- 四万十オリジナル旅プラン」 渋谷佳代子さん

渋谷氏は四万十町に移住した経験から、三島キャンプ場が持っている魅力を観光アクティビティとして磨き上げて体験してもらうビジネスプランの発表が行われた。

渋谷氏は東京出身で四万十川の魅力に惹かれて移住をしており、自分自身が体感した感動を多くの人に届けようとしている。

一方で、四万十町を訪れる観光客はコンテンツを消費するように旅をしており、もったいなさを感じている。三島キャンプ場が持つバンガローなどへ宿泊をしてもらい、四万十町内でじっくりと時間を使ってもらえるようにしたいという想いから事業に取り組むことが語られた。

具体的には、宿泊、食、アクティビティの3つの要素をセットとして準備しており、三島キャンプ場のバンガロー宿泊者を増やして、キャンプ場利用者1500人にしていくなど、具体的な数量指標をもって構想している。

観光コンテンツの磨き上げを通じて、三島キャンプ場が観光客にとって自分らしくいられる場所で、再度訪れたいと思ってもらえるキャンプ場として運営したいという目標が発表された。



「-地元の食と自然を満喫- 四万十オリジナル旅プラン」 渋谷佳代子さん

Q：泊数を増やす上で連泊しやすい地域づくりが必要なのかなと考えたが、どうか？

A：連泊者としては、洗濯機や魚を冷凍できるなどの要素があるとニーズが満たせるということがわかっているため、こうしたニーズに対応する準備は整えたい。

Q：令和7年度の目標が1.5倍に設計されている理由と、将来的に暮らしていくために必要な数量設定は？

A：1.5倍は弱気になって設定した。ビジネスになるための数量はもう少し詰めた方が良く考えている。



「-地元の食と自然を満喫- 四万十オリジナル旅プラン」 渋谷佳代子さん



本日のプレゼン内容

1. 原体験・自分が取り組む背景
2. なぜ取り組むの？
3. 問題点と改善策
4. 選べるオプション内容
5. 目標と目指す世界

2

01 思えば、いつも川は私の心のよりどころだった



とりあえず、荒川いこ！

1人で、ゆっくりできる ほっとする場所
大きな空を眺め、自然を感じられる
まわりの人に気をつかわなくていい

3



「-地元の食と自然を満喫- 四万十オリジナル旅プラン」 渋谷佳代子さん



02 四万十町は最高の遊VIVA！



03

三島キャンプ場の宿泊と
体験メニューの課題

体験メニュー利用者
近隣の宿泊施設に宿泊してしまう

6



03 現状分析と課題

三島キャンプ場のパンガロー

- ▶ 殺風景
- ▶ 寝具がない
- ▶ 調理器具、BBQ台などもない
- ▶ キャンプ道具を持ってこれない

⇒ ハードルが高い

7

03

四万十川アクティビティをしに来る
お客様の課題点（ターゲット）



- 四万十川に遊びに行くって大変💦
- 泊まる場所もアクティビティも探さないと
- ご飯はどうする？
- 現地ではどんなことが楽しめるのかな
- ネット情報だけじゃ分からない
- 現地に詳しい人に教えてもらいたい



「-地元の食と自然を満喫- 四万十オリジナル旅プラン」 渋谷佳代子さん

03 どんなお客様の課題に取り組むのか

どれも、あきらめたくない！

- 四万十の鮎も食べたい！
- アクティビティもしたい！
- 自然を感じてゆっくりもしたい！
- 四万十川を充実&楽しみたい



改善策

自由なオリジナル旅行プランのお手伝い

東京 & 四万十を知るスタッフに相談できる！

アクティビティ、宿、ご飯

自分好みの旅行プランに合わせてオプションで
つけることができる！



04 オプション内容

アウトドア 宿泊
×
地産地消にこだわった 食
×
自由にカスタムアクティビティ 体験

絶景のロケーションで
視覚・聴覚を満たす

四万十川の中にいることを実感できる
バンガロー泊



「-地元の食と自然を満喫- 四万十オリジナル旅プラン」 渋谷佳代子さん

四万十食材に
こだわった
地産地消
BBQプレートで
臭覚、味覚を
満たす旅



周辺施設や生産者さんと提携して
『食』×『野外で食べる』

05

どれくらいの課題解決と成果を
目指しているのか

15

04

選べるアクティビティ体験



04

令和6年度のデータを基に

三島キャンプ場令和利用者数：約1500名

バンガロー宿泊数：約450名（大人316人／小人129）人

体験メニュー利用者数：約270名

【目標】

バンガロー宿泊数：670名（大人474名／小人194名）

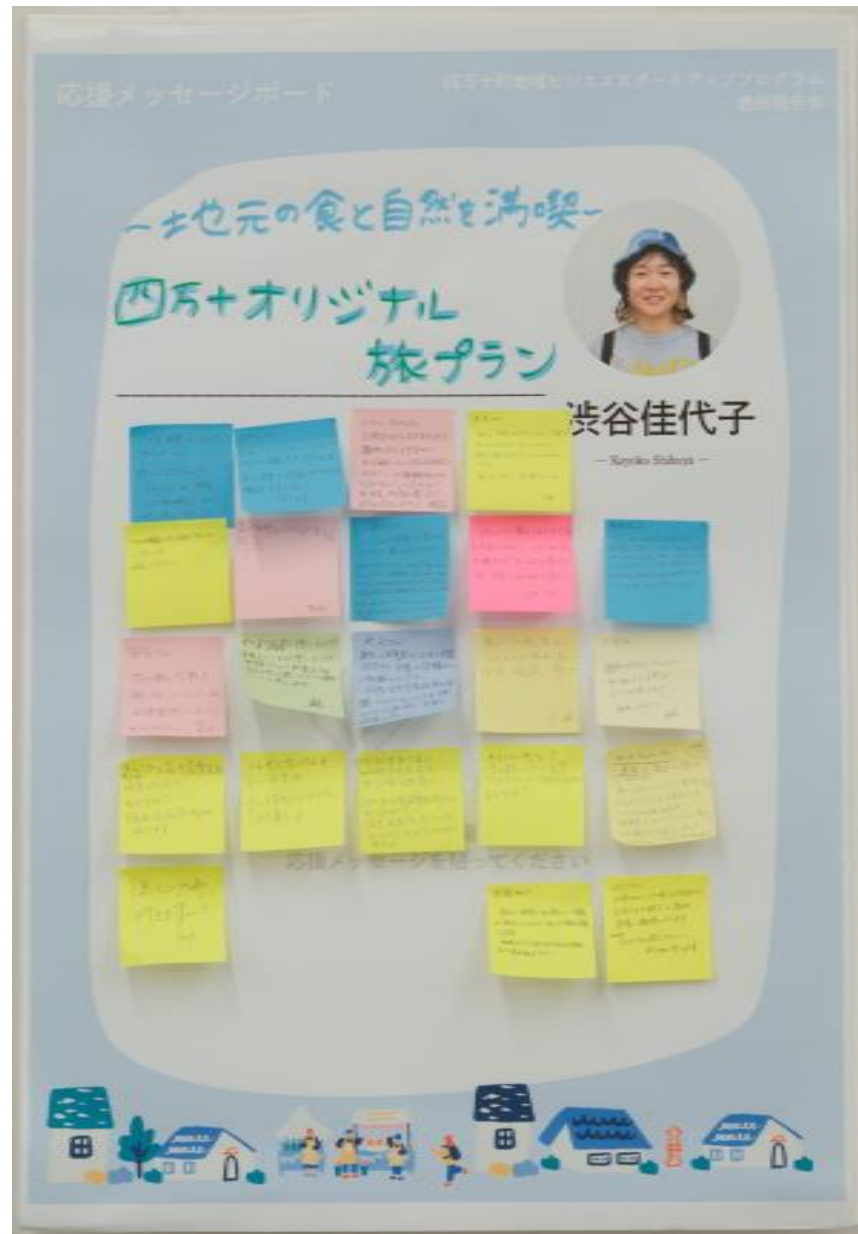
体験メニュー利用者：405名（うち宿泊：80組（2割））

16

「-地元の食と自然を満喫- 四万十オリジナル旅プラン」 渋谷佳代子さん



「-地元の食と自然を満喫- 四万十オリジナル旅プラン」 渋谷佳代子さん



「四万十餃子でつながる地域と全国～オンライン販売化プロジェクト～」 岩崎姫無さん

岩崎氏からは、四万十の食材や魅力を餃子として包み、全国へのつながりを作るために餃子の加工とオンラインでの販売を行うビジネスプランの発表が行われた。

四万十町には地域おこし協力隊として赴任されたが、東京ではありえない生活や食材などの魅力に気づいたとのこと。

こうした魅力を届けるために餃子を選択して、地域の魅力を全て包み、餃子という手段を活用して全国に届けていきたいという事業にかける想いが語られた。

餃子に使用している素材へのこだわりとして、食材の8割は四万十町産であり、完全手作りで届けているとのこと。さらに、生産者の顔が見える関係をつくることを意識して事業に取り組まれている。

現在は餃子を店舗で販売する形で取り組んでいるが、今後は体験コンテンツを作るなどの取り組みをしたいことや、ふるさと納税やオンライン販売を行うなど、四万十町内だけではなく全国に向けて事業を進めていく構想が語られた。



「四万十餃子でつながる地域と全国～オンライン販売化プロジェクト～」 岩崎姫無さん

Q：お客さんからはどのような声があるか？

A：「餃子は作るのが手間だから、ありがたい」という声がある。町外向けのアイデアを話したが、町内に向けての販売も行なっていきたい。

Q：町の食材を使って餃子一本でやっていく予定なのか？

A：現在のところは餃子でやっていこうと考えている。餃子を手段として包んでいく系で四万十町の景色を届けたいと考えている。

Q：餃子を作る際にこだわっている点や他に無い要素などあれば教えていただきたい。

A：米粉を使った餃子の皮を作ってパワーアップできたら良いなと考えている。



「四万十餃子でつながる地域と全国～オンライン販売化プロジェクト～」 岩崎姫無さん

四万十餃子で包んでつながる地域と全国
～オンライン販売化プロジェクト～

岩崎 姫無 | Iwasaki Himena

Wangled
Tangled

背景・理由

移住

2023年4月 地域おこし協力隊



挑戦する人よりも
それを応援できる人がいる



「四万十餃子でつながる地域と全国～オンライン販売化プロジェクト～」 岩崎姫無さん



背景・理由



町内産の食を活用したい…
餃子だっ！



背景・理由

オープン

2023年9月 餃子屋Tangled



「四万十餃子でつながる地域と全国～オンライン販売化プロジェクト～」 岩崎姫無さん



結論

四万十町の食材と体験を通じて、

地域 と **全国** をつなぐ



特徴

1

四万十町産の食材をふんだんに使用

約8割
地元食材！

2

完全手作り！一つひとつ丁寧に包みます

3

生産者の顔が見える

「四万十餃子でつながる地域と全国～オンライン販売化プロジェクト～」 岩崎姫無さん

事業概要



ただの美味しい餃子なんていくらでもあるよ～

食 × 体験

差別化・優位性

四万十町（地域性）を感じられる
普通の観光ではできない体験を提供



地元のハンターと狩猟体験
～採れたてのジビエ肉で餃子づくり！～

「四万十餃子でつながる地域と全国～オンライン販売化プロジェクト～」 岩崎姫無さん



ヒノキサウナで四万十川にドボン
～サウナ飯で四万十餃子をご堪能～



岩本寺で断食道場合宿
～何もない胃に四万十餃子を入れよう～

顧客獲得・販売計画

体験コンテンツ

- 岩本寺のお遍路さん
- 観光できてる宿泊客

オンライン販売

ふるさと納税へ出品



四万十町の食と体験価値を通じて、地域と全国をつなぐ



「四万十餃子でつながる地域と全国～オンライン販売化プロジェクト～」 岩崎姫無さん



「四万十餃子でつながる地域と全国～オンライン販売化プロジェクト～」 岩崎姫無さん



「カッコいい農業で未来を変える」横田岳夫さん

横田氏からは、日本の農業を変えるために四万十町が持っている農産物を磨き上げることや農業の取り組み方そのものの概念を変える「カッコいい農業」を作り出す構想について発表が行われた。

四万十町が抱えている高齢化や農業の後継者不足に関する問題を解決する手法として、農業のあり方を変えるというアイデアが紹介された。

具体的には、四万十町が持っている農産物に着目し、香り米、発酵生姜、エディブルフラワーなど四万十町が持っている資源などを活用して魅力の磨き上げを行うとのこと。

また、単純な商品に加工するだけではなく、イベントの企画を行ったり、SNSのフォロワーを増やしたりする生産物の売り出し方についても取り組むことが説明された。

四万十町の魅力を届ける際には、美味しい食材は土地から生まれることや生産者の努力に支えられているため、生産者の視点を持って事業へ取り組み続けたいという想いが語られた。



「カッコいい農業で未来を変える」 横田岳夫さん

Q：香り米の品種は何か？どんな仕組みにしたいか？

A：十和錦である。もう少し高い値段で、農家さんからお客さんのもとへ商品が届いたら良いと考えている。現在は中間で抜かれたりしているので、それが残念。

Q：美味しいお米を作る時は、手間をかけないと作れない。どうしても人手が必要になると思うが、農業者の確保をどのように考えているか？

A：春・夏・秋などに耕運しておくというような作業を仕掛けることが重要だと考えている。事前準備や雑草対策を事前に展開することによって大変な作業にならないため、栽培の事前対策をすることで手間がかからない農業にすることが可能だと考えている。



「カッコいい農業で未来を変える」 横田岳夫さん



カッコいい農業 って？

「稼げて、憧れられて、次世代につながる農業」

- ① ビジネスとして成立する農業（しっかり利益を出す）
- ② 地域資源を活かし、新たな価値を生み出す（香り米・発酵生姜）
- ③ 都市と地方をつなぐ仕組み（SNS発信・シェフとのコラボ）
- ④ スタイルがある（デザイン性やブランディング、暮らし）
- ⑤ ただの生産者ではなく、発信者・仕掛ける側になる

ターゲット： **若者**

目的： **選ばれる仕事にする**

結果： **未来が変わる**

「カッコいい農業で未来を変える」横田岳夫さん

価値決定者	希少価値	地域資源 (風土)	地域資源 (気候・自然)	新しい価値	若者の興味	若者の興味を引く取り組みをする	地域の活性化に繋げる	若い世代が抱える取り組みをする
若い市場	香り米を たくさんの人に	ファンづくり	観光・体験	エディブルフラワーで暮らしに取り入れる	世代を超えた交流	六次産業化	ヘーゼルナッツで新しい価値を	耕作放棄地を減らす取り組みにする
収入増 (米農家自立)	認知(認知)拡大	体験価値	農業の多様化	六次産業化	認知価値	地域資源(新しい作物)	六次産業化	栽培する価値を上げる
新しい価値観 (新しい風)	Something New 周りに変わらうとする姿勢	ギンギンと儲かる	香り米を たくさんの人に	エディブルフラワーで暮らしに取り入れる	ヘーゼルナッツで新しい価値を	養蚕→絹二	独自性	地域資源(認知価値)
人生を楽しむ 農ライフ	新しい農業	ブランド化	新しい農業	カッコいい農業で未来を変える	発酵生薬	新しいファン	発酵生薬	販売チャネル
地域資源 (人口増加)	創意工夫(販路)	エフェクチュエーション (経営理念)	実る	モノづくりではなくコトづくり	共感・楽しさ	健康	商品質	ロングセラー
独自性・個性化 (関・無農・農・年代)	価値以外の魅力	ブランドアイデンティティ	引き力 (買いたい)	らしさ	繋がり (交流・参加)	インナーブランディング	利他の心	憧れの職業になる
近視眼的	実る	ブランドイメージ	価値(幸せ)	モノづくりではなくコトづくり	体験	応用してもらう (コミュニティ)	共感・楽しさ	家族と同じ給与水準
センスを 磨き続ける	創意工夫(販路)	感性に訴求	自へることを喜びをつくる	消費者目線 売る→買う 距離	地域資源	人生を楽しまし 遊びを先にする	ファン(マイクロ インタレストプロ セスエコノミー)	地域資源

ToCフレーム



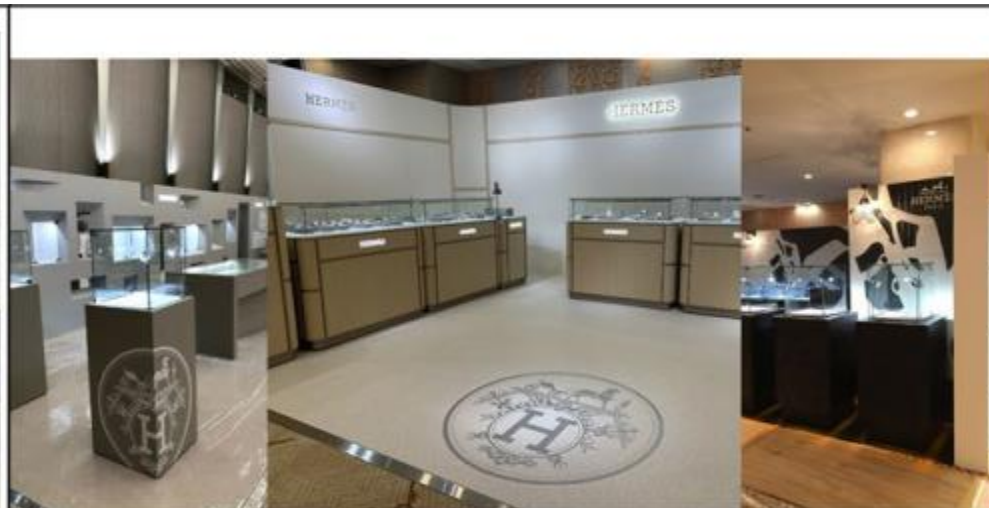
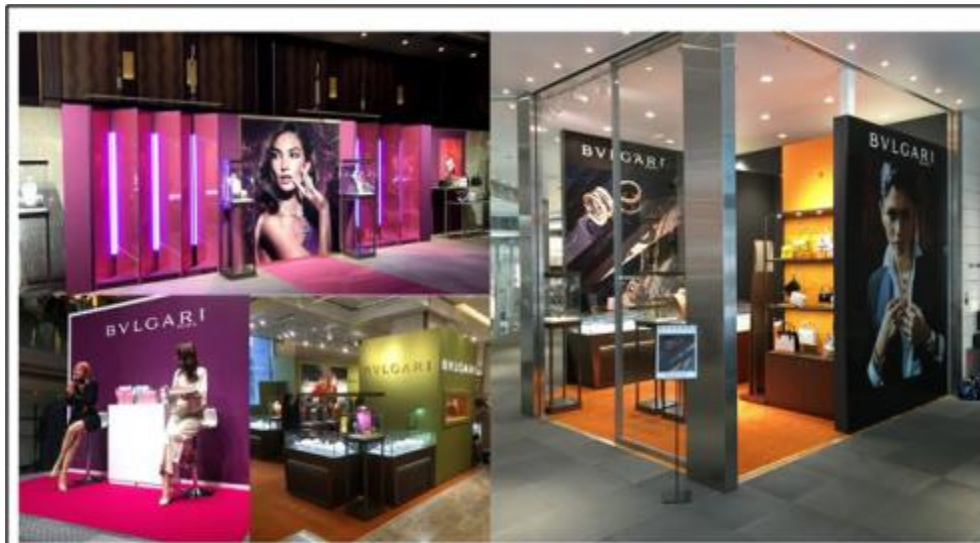
「稼げて、憧れられて、次世代につながる農業」

- ① ビジネスとして成立する農業（しっかり利益を出す）
- ② 地域資源を活かし、新たな価値を生み出す（香り米・発酵生薬）
- ③ 都市と地方をつなぐ仕組み（SNS発信・シェフとのコラボ）
- ④ スタイルがある（デザイン性やブランディング、暮らし）
- ⑤ ただの生産者ではなく、発信者・仕掛ける側になる



3/17/2025

「カッコいい農業で未来を変える」 横田岳夫さん



なんで未来を変える必要がある？

「カッコいい農業で未来を変える」横田岳夫さん

年齢別人口数 TOP5

1位	75歳	347人
2位	77歳	338人
3位	74歳	338人
4位	76歳	319人
5位	71歳	305人

1647人/15034人

全体の人口の1割強を占める

四万十町も

高齢化が激しい

四万十町 将来推計人口

2050年人口（移動想定）			2050年人口（封鎖人口）			2020年	
若年女性人口 減少率（%）	若年女性人口	総人口	若年女性人口 減少率（%）	若年女性人口	総人口	若年女性人口	総人口
▼61.8	362	7,595	▼15.6	799	9,294	947	15,607

地方自治体「持続可能性」分析レポート（令和6年4月公表）より抜粋

「カッコいい農業で未来を変える」 横田岳夫さん

待ったなし

四万十町の農業

耕作面積：約2,500ha
(1ha 100m×100m 1町)

基幹的農業従事者の年齢構成

- 2023年における基幹的農業従事者数は116万人、平均年齢は68.4歳（2022年）で、年齢構成は70歳以上の割合がピークになっている。
- 今後10年から20年先を見据えると、基幹的農業従事者数は大幅に減少することが確実であり、少ない経営体で農業生産を支えていかなければならない状況。



四万十町 基幹的農業従事者
2482名

50代以下が20%だとすると・・・

496名

さらにこの20%になってしまうと・・・

大ピンチ
待ったなし



若者が絶対必要

「稼げて、憧れられて、次世代につながる農業」

- ① ビジネスとして成立する農業（しっかり利益を出す）
- ② 地域資源を活かし、新たな価値を生み出す（香り米・発酵生姜）
- ③ 都市と地方をつなぐ仕組み（SNS発信・シェフとのコラボ）
- ④ スタイルがある（デザイン性やブランディング、暮らし）
- ⑤ ただの生産者ではなく、発信者・仕掛ける側になる

「カッコいい農業で未来を変える」 横田岳夫さん

① ビジネスとして成立する農業
(しっかり利益を出す)

② 地域資源を活かし、新たな価値を生み出す
(香り米・発酵生姜)

4つの戦略

香り米

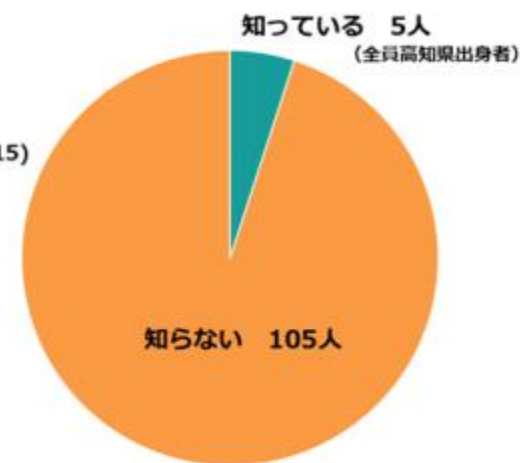
発酵生姜

エディブルフラワー

ハーゼルナッツ

香り米について

阪急うめだ本店
奥四万十フェア (2024/10/9~10/15)
無料サンプル (2合) 130個配布



香り米

「カッコいい農業で未来を変える」横田岳夫さん

生産者の声

育てにくい
収量が取れない
価格が高くない

消費者の声

香りがいい
美味しい
くせになる
忘れられない香り
朝、香り米の香りで目が
覚めると幸せな気分になる

認知度 低

希少性

需要

食味分析値のご報告

産産地	高知県高岡郡岡子町
産産者	横田 岳夫
品種名	中粒種 玄米
年度	令和6年度

セット ライスダ 5kg 奉還率合計 1kg、0%

水分	15.2%
タンパク質	6.1%
アミロース	16.3%
糊化率（玄米のみ）	85%
スコア	89点

備考：

検定結果	検定結果
検定結果	検定結果
検定結果	検定結果
検定結果	検定結果
検定結果	検定結果
検定結果	検定結果
検定結果	検定結果
検定結果	検定結果
検定結果	検定結果
検定結果	検定結果

（報告書）

6. 参考データ

2012年度から2022年度に行った玄米の食味品質調査結果について、各成分の平均値、最小値、最大値及び食味スコアの分布図を下記に示します。

表1 食味成分 試験結果のまとめ

食味成分	平均値	最小値	最大値
水分	14.8	11.2	18.0
タンパク	7.2	5.1	11.6
アミロース	18.1	13.2	23.1
糊化率	18.3	6.8	28.9
スコア（食味値）	77	68	96

※ 検定結果データは省略

食味値 分布図

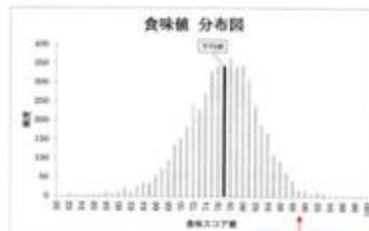


図1 食味値スコアの分布

つくば分門センター

環境

受け継がれてきた大切なお米

歴史

- ✓ 希少性
- ✓ 認知度
- ✓ 需要
- ✓ 環境
- ✓ 歴史

魅力しかない



発酵生姜

「カッコいい農業で未来を変える」 横田岳夫さん

日本一の生産量を誇る生姜



NOT JUST GINGER

ただの生姜じゃない

新しい生姜の可能性
新しい価値を

暮らしに彩りを

「カッコいい農業で未来を変える」 横田岳夫さん

エディブルフラワー



加工品：ハーブティー/シロップ/ソルト/シュガー
生花・ドライ



減っていく農業者 増えていく耕作放棄地

2025/3/17

42

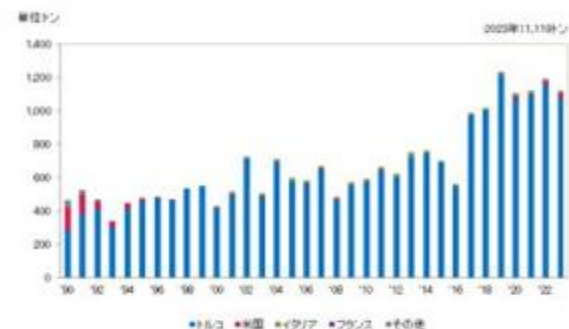


国産ヘーゼルナッツ

ヘーゼルナッツ(殻を除去した生鮮品・乾燥品)の輸入動向
HS080222

3. 輸入量の推移

輸入量の推移



輸入量 1,119 t
輸入額 11.8億円
輸入価格 1051円/kg

2023年実績

「カッコいい農業で未来を変える」横田岳夫さん

【魅力】

- ・栽培が容易(無農薬・無肥料・無灌水・無消毒)
- ・鳥獣害の被害にあいにくい(イノシシ等の防護柵は必要)
- ・永年作物(20年ほどで植え替え)
- ・国内生産者が少ない(多くは長野県に集中)
- ・高単価(殻付きで1kg800円 長野県での実績)
1反あたり40本(2.5m間隔) 1本につき5kg収穫 = 1反あたり 米 8袋収穫 (1袋 10,000円で販売)
- ・高齢者・女性の栽培が可能

【デメリット】

- ・成木になるまで8年ほどかかる

魅力しかない

2025/3/17

46

③都市と地方をつなぐ仕組み

(SNS発信・シェフとのコラボ)

2025/3/17

47

SNS発信

5年後までに総フォロワー5万人を目指します！

課題！



2025/3/17

48

「カッコいい農業で未来を変える」横田岳夫さん



シェフとのコラボ



④ スタイルがある (デザイン性やブランディング、暮らし)

デザイン・ブランディング



ライフスタイル



「カッコいい農業で未来を変える」 横田岳夫さん

⑤ ただの生産者ではなく
発信者・仕掛ける側になる

2025/3/17

52

カッコいい農業で未来を変える

農業から少しでもお役に立てたら・・・



2025/3/17

53

「カッコいい農業で未来を変える」横田岳夫さん



4.実施概要

ワーク：グループメンタリング



最初に講師から挨拶が行われ、最終発表に向けてグループメンタリングを行い、資料の修正を行うことが共有された。



メンタリングを担当するメンターの紹介が簡単に行われた後、グループメンタリングを開始した。



担当の学生メンターと受講生、外部メンターが同席し、最終発表の資料の修正を行なった。



受講生は、練習も兼ねて1人1人、時間を計って模擬的に報告を行っていた。



外部メンターから「ピッチ感はそこまでなくても良い」、「もっとここを話してほしい」などの感想やアドバイスが共有された。



外部メンターからアドバイスを受けた受講生は、各々で修正を行ったり、他のメンターに相談をしながら資料を整えていった。

最終報告会



四万十町役場の吉村が司会を行い、全体で3時間程度の最終報告会となった。



報告会には、四万十町の住民の方や関係者の方などが参加されていた。



受講生は、発表の順番がくるまで綿密にスライドや原稿の確認を行っていた。



受講生は自身の原体験やプロジェクトについて8分程度で発表を行なった。



質疑応答も行われ、「なぜそのプロジェクトをやると思ったか?」、「資金調達の方法は?」など、細かな質問が投げかけられた。



各受講生への応援メッセージボードも設置され、参加者より励ましや応援の言葉が送られた。

問い合わせ先

四万十町役場人材育成推進センター

担当：中井智之・吉村愛

〒786-0008 高知県高岡郡四万十町榑山町3番7号

E-mail：103060@town.shimanto.lg.jp

TEL：0880-22-3163 FAX：0880-22-3345

高知大学地域協働学部コミュニティデザイン研究室(須藤順研究室)

担当：准教授 須藤順

〒780-8520 高知県高知市曙町2-5-1総合研究棟1階

Web：<https://www.communitydesign-kochi.jp/>

E-mail：j.suto@kochi-u.ac.jp

TEL：088-888-8077 FAX：088-888-8043

※本講座に関する問い合わせは上記までお願いいたします。

※本資料の無断での配布、外部組織や個人への配布・閲覧、及び二次使用は、固く禁止させていただきます。